

# さ ざ ん か

第95号、2009年10月

歴史的な政権交代があり、2ヶ月近く経ちました。これから、多くの約束が果たされていくのでしょうか、これまでの自民党の長年の腐臭を取り去るには、まだまだ4、5年はかかるでしょうから、ここはジッと我慢して待ちたいところです。

明治維新に告ぐ平成維新だという言い方もあるようですが、明治維新の場合は大名は領地を奪われ、殿様でなくなったり、士農工商の身分はなくなったり、廃藩置県が行われたり、今考えても本当に維新という言葉にふさわしい激しい改革が行われたのだろうと推測できます。その点でいうと、まだまだ今は明治維新と比べると、ちゃんちゃら甘いという感じですね。ムダの象徴のダム建設を中止するというただそれだけであんなに大騒ぎしているのですから、ちょっと先行きが心配な面もあると同時に、明治時代と異なり民主主義がより深化した現代ではある程度の菌痒ゆさはむしろ歓迎すべきことなのかもしれない、とも思ったりします。一方、大騒ぎしているのはよくよく考えてみたら、マスコミだけなのでは？という疑問もあります。

ハツ場ダムに関しては、とても地元の利害関係者以外の多くの国民が関心を持っている話題とは思えません。5千億円以上もつぎ込んで、いま廃止するとかどうかの議論があること自体が腹立たしくてたまりません。政権交代がなければ、何の疑問もなく、さらにあと数千億円つぎ込んでいたのかと思うと、やはり今回の政変は歓迎すべきなのでしょうね。

欠点ばかりをあげつらうマスコミに乗らないようにしたいものだと思ったりもしますが、皆さんはいかがお考えでしょうか。

---

---

## 俳句

西屋敷喜美子

夢楽し 現は苦し 草紅葉

運動会 親の出番の 多かりし

運動会 郷土の踊り 守り継ぐ

## 病院からのお知らせ

- \* 新型インフルエンザが猛威をふるいつつあります。手洗い励行はそのまま続けましょう。発熱して心配な方は、早めに受診してください。考えようによっては、早めにかかって早めに新型インフルエンザに対する免疫をつける、というのも逆説的には良いのかもしれませんが。
- 季節性インフルエンザのワクチンもぜひ例年通りおこなうようにしましょう。
- \* 12月5日（土）に昨年に引き続き健康セミナーを開催する予定です。元気こころ館で開催する予定にしております。お誘いあわせの上、多数ご参加下さい。詳しいセミナーの内容は後日病院外来に掲示する予定です。
- \* 神経内科外来は火曜日が鹿児島大学からの神経内科専門医が担当し、それ以外の曜日は高橋先生の担当になります。
- \* 毎月第3金曜日の血液外来は前院長の野村紘一郎先生の担当になります。その他肝臓病外来（4月から月2回に増えます）、糖尿病外来（月、金：福重先生）の専門外来も開設しております。
- \* 脳神経外科外来について：4月からはやむなき事情により週1回金曜日になっております。担当医師などの詳細は脳神経外科外来でお尋ね下さい。
- \* 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみてはいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。
- \* MRIで脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながるからです。また、脳動脈瘤の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかると予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。
- \* MRIは腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。
- \* 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。
- \* 「さざんか」への投稿をお待ちしております。苦言、提言、自作の詩歌、エッセイ、家族自慢なんでも構いません。記念もかねて一度投稿してみてもいいでしょうか。原稿料はありませんので、ねんのため。勿論、掲載料もありません。

## うそかまことか カラーマン（とその女）

最近読んだ本の中でウソかマコトか良く分からないことがあった。我がニッポン国の借金の問題だ。ニッポン国の財政を考えると、新聞、テレビはじめマスコミは国民一人当たり 600 万円を超える借金があるので、これ以上借金を子孫に残さないために、国債は絶対にこれ以上多く発行してはいけない、このままじゃあ国が滅ぶ、と声高に叫んでいる。

医療とか福祉に財源をつぎ込もうとすると、借金してまで医療、福祉につぎ込むと恩恵を受けるいまの人達はいいが、結局は子孫がツライツケを払うことになるから、安易にそういうことに国の財源を支出するのはやめろ、という。

多くの大学の経済学専門の教授や、シンクタンクとかの（肩書きが）偉い経済学者の人達も同じように同じ様な顔で言っている。これ以上借金は増やしてはいけないと。あるテレビのバカキャスターのバカの一つ覚えの文句は「結局は子孫に借金を残すことになりま

すからねえ」である。

ところがである。それは大嘘だというのだ。勿論、借金の額とかは、嘘のつきようがないので、それはその通りらしい。問題は、借金が国を亡ぼすかどうか、ということだ。借

金でニッポン国は滅ばない、というのだ。そ、そうなのか。

「国民一人当たり 600 万円の借金」という言葉の意味について考えろ、という。単純な私なんかうちは 4 人家族だから、600 万円の 4 倍で 2,400 万円か。だ、だめだ、今の生活も大変なのにこんな借金なんて返せそうもないぞ、とってしまう。

（でも、不思議ね。よく考えたら、いったい誰にそれを返すのかしら。国に返すっていつでもどうやるのかしらね。それに返さなかったらどうなるのかしらね。財務省の官僚さんたちが我が家に取りたてにくるのかしら。乏しい財産を差し押さえられるのかしら？そもそも、我が家には 2400 万円の借金があるというけど、その証文も契約書もないわ。）

そうだな。国が借金で滅ぶ、ということはいったいどうゆうことだ？

債権者となった朝鮮人や中国人やロシア人やアメリカ人が日本列島に乗り込んできて、建物や食べ物を差し押さえる、ということなんだろうか。いったい、どうなるというのだろうか。国が滅ぶ中味を具体的に言っているエコノミストは少ない。知恵不足のアホ経済学者は、財政破綻した夕張市みたいになるととんでもないマトハズレのことを言っているようだけどね。（地方の財政と国家としての財政をごっちゃませにしているお馬鹿さん達のことね。日本政府は円を刷ることが可能だけど、夕張は刷れないという違いが分かってないのね）

どうも借金が国を亡ぼすという危機感そのものがうまく国民を利用するための単なるブ  
ラフにすぎないらしい。国の財布を握って思いとおりに使っている政治家や官僚達のワナ、  
だという。

親と子供の関係に例える。親がニッポン国民、子がニッポン政府だ。具体的なイメージ  
としてはこうだ。家も古くなったし、この際思い切って新築しようと思いたった子供（ニ  
ッポン政府）は、自らの貯金は少ないので借金をして家を新築することに決めた。（そうね、  
みんな家を建てる時は住宅ローンを組んで返すのがふつうなものね。いきなり、全部キ  
ャッシュでポンと払って家を買える人はほんの一握りの人だわ。ローンを組むという行動  
は間違いではないわね）

さて、誰に借りるか、と考えたとき、他人（外国人）に借りるのは嫌いだからこの際、  
カッコ悪いけど、甘えて親（ニッポン国民）から借りることにした。借金の証文は「日本  
国債」という名前だ。親とはいえ、借りるのだからきちんと利息も払うことにしている。  
他人（外国人）から借りると、万が一の事故があったりして払えなくなってしまえば親（ニ  
ッポン国民）に迷惑がかかる可能性がある。その点、親から借りるのであれば、気持ちが  
楽である。

我が家全体で見れば、子（ニッポン政府）の借金（赤字国債）は裏から見れば親（ニッ  
ポン国民）の貯金でもあるのだ。マネーの亡者みたいなアメリカさんとか、取立てに容赦  
がない中国さんから借りてしまうと子（ニッポン政府）の借金でも、子が返せないときは  
親（日本国民）が返さないといけないハメになり大変である。できるだけ、外国人向けの  
赤字国債の発行は避けたいところだ。ところがである。皆さん、安心しなさいという。現  
状は日本国債は、外国はまったく蚊帳の外であり、我が家（ニッポン国）だけのなかで、  
親（ニッポン国民）が子（ニッポン政府）に貸すのだから、その額が 600 万円だろうか、  
1000 万円だろうか、1 億円だろうか、どうでもいいことだ。その額の多寡で我が家（ニッ  
ポン国）が潰れるはずがない。

（そういうことなのか！債務超過に陥って破産した国は、全部外国からの借金だったか  
ら、倒産したってことね。ニッポン国の借金は殆どが日本国の国債だから、国民から見れ  
ば国民は黒字国債を沢山持っている、ということになるのね。子供の借金は親の貯金、て  
わけ。金持ちの親（ニッポン国民）が、貧乏な子供（ニッポン政府）にお金を貸している  
だけに過ぎないんだ。なあんだ、そうなんだあ）

経済の難しいというか面白いところは、この国債を発行するのが政府そのものだというところだ。要するに、自分で沢山刷って、それだけ自分で使えるということらしい。極端にいうと、国債を刷り放題にしても結局我が家のうちだけでの貸し借りだから、いくら刷っても問題ない、ということだ。もちろん隣とかご近所がからむと、そうはいかないのは当たり前だ。その場合は、借金が国を亡ぼすと言っても良い。しかし、日本国債を日本人が買っている間は、バカの一つ覚えみたいに「借金が国を亡ぼす、借金が国を亡ぼす」と念仏を唱える必要はないということだ。

ことさらニッポンの危機のみを強調している人々から愛国の心を感じられないような気がするのには単なる気のせいだろうか。

このままでは日本経済に未来はない、と御用学者が言っていることが本当なのかどうか。何が正しくて、何が間違いであるかは最終的には自分達のアタマで考えるしかないのだろう。まったく、世の中、何がウソでなにがマコトか、判断するのはとても難しい。

借金はないに越したことはない。それはマコトだろう。でも、この借金が身を滅ぼす、それは何となくウソであるようだ。

暇があれば下記の参考文献をお読み下さい。

参考文献：三橋 貴明（著）

マスゴミ崩壊～さらばレガシーメディア（扶桑社）

ジパング再来 大恐慌に一人勝ちする日本（講談社）

本当はやばくない日本経済 破綻を望む面妖な人々（幻冬舎）

---

---

## 短歌

瀬戸よし子

誕生日 子が買ってくれし 地デジにて いよいよなるか 政権交代

テレビドラマの中になく虫 庭の虫 声重なりて 秋の深まる

---

---

## 編集後記

いつの間にか寒くなっていました。なんだかですね。なんでしょうかね。政権交代だなんだと言っているうちにいつの間にか秋になり、もうすぐ、年末、そしてお正月。そしてまた、こよみ上は一つ年をとる。「早くオトナになりたい」と時間が早く過ぎ去るのを、一瞬でも願ったことがある子供時代で、本当にいい時代だったのですね。時間よとまれ！